

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第160号



江戸時代を歩く 関のまちなみ

宿場町「関」をぶらり

風景写真愛好家 片桐 彰夫

関は三重県亀山市にある東海道五十三次47番目の宿場町です。伊勢路・大和路への分岐点にあたり、参勤交代やお伊勢参りで賑わったようです。宿場は東西1.8キロに亘り、江戸・明治期の建物が200軒余り残っています。昭和59年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、地元の人々が主体で、老朽化した建物の保存修理、電柱移設などの景観整備、ボランティア案内などの広報活動に熱心に取り組みました。おかげで古い町並みが復元保存され、訪れる人々が存分に楽しむことができます。建物の出格子、白土壁、虫籠窓、屋根のしつこい彫刻など、江戸時代にタイムスリップした気分が味わえます。

特に興味深かったのは、歴史資料館として復元されている大旅籠「玉屋」です。帳場で人形の番頭さんがお出迎え、二階への急な階段を上ると六から八畳の客室が続き食器や寝具がならべてあります。時代劇そのままでも御老公一行が登場しそうな雰囲気です。土間と調理場には、かまど、調理道具、徳利などがたくさん並べられており大旅籠の賑わいが想像できます。

(次頁へ)

もう一つ印象に残ったのは関神社の例大祭「関宿祇園夏まつり」です。町並み復元への取り組みに合わせ、まつりの保存伝承の動きも活発となりました。現在は4台の山車（やま）が町中を巡行し、うち2台は山車会館に常時展示されています。まつりの際に勢ぞろいした山車の上部を回転させる舞台まわしは迫力満点です。

これ以上できないことを「関の山」といいますが、この語源といわれているのが「関の山車」です。飾り付けられた豪華な山車が狭い宿場内で身動きもとれないほどであった様子からきているそうです。毎年7月の京都祇園祭と同じ時期に開催されるので是非とも観たいものです。

さて、名物は「志ら玉」や「関の戸」などの和菓子ですが、昼食の「わらじカツ」で満腹になってしまいましたのでチャレンジできませんでした。残念です。



関宿祇園夏まつりの山車

雑記 ごまめの歯ざしり

ウォーキング

子供が二十歳を迎えるということとは知らぬ間に自分もそれだけ歳を重ねて来ているわけで、ここ数年健康診断の結果を見るのにちよつとドキドキするようになり、体力の衰えを感じ出した。また数年前から持病のアトピーが全身に出て

まい病院通いをしてきたのだが、特に原因が見当たらず免疫力の低下では？とのことだったので、なんとか体力維持をしなくてはと思い、手っ取り早くお金もかからない「歩く」ことを始め数年が経つ。そして最近、この歩くことの大切さとその効果をとて実感しているのである。よく1日1万歩と推奨されるが時間もなかなか取れないので5千歩を目標にしているのだが、通勤時にまず2つ手前のバス停でおり、朝15分程歩く。散歩ではなく、腹筋や身体の軸がぶれない様に、また足の裏や足の親指でしっかりと地面を蹴ることを意識し少し早歩きをする。毎日していると、ちよつと疲れていたら速度が遅くなるなど自分の体調も把握でき、腰痛や巻き爪も調子が良い。朝日を浴びながら歩くことの良さは体力維持だけではなく、街中でもたくさんの鳥たちのさえずりが聞こえる中、今の職場は近くに小さな川があるので周りの木々を抜ける風も心地よく、頭がシャキッとして心が浄化？されとても気持ちがあすつきりする。

最近ではコロナ禍で運動不足になりがちなことあつてか、歩くだけでポイントがたまる様々なアプリがあるのをご存じだろうか。私は3つのアプリを活用してそのポイントを貯めることもモチベーションとなり、ただ歩くことで一石三鳥以上の効果をもたらしてくれている。

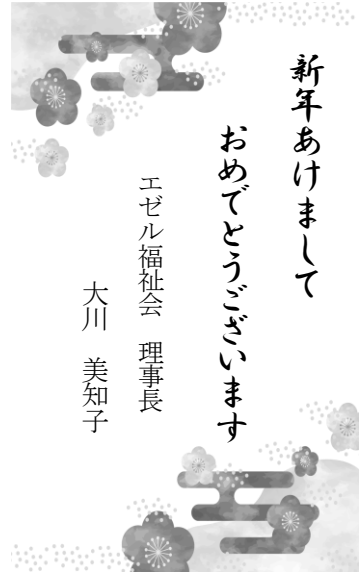
（会報委員 鈴木 奏子）

新年あけまして

おめでと〜うございませす

エゼル福祉会 理事長

大川 美知子



【 新たな年を迎えて 】

新年、明けましておめでと〜うございませす。
新たな年を迎えてまた一つ年齢を重ねる
ことになりました。

個人的なことで恐縮ですが、私がコンビニ
ハウスの活動と出会ったのは50歳の時です。
紆余曲折があり、その10年後、社会福祉法
人エゼル福祉会が誕生し、初めての認可施設
(通所施設WILL)と「暮らしの場」であ
るパルハウスが建設されました。

それからの15年、既存の事業の充実をは
かることに懸命で、新たな展開としては3年
前に通所部WILLの半数(12名)を法人
本部と共に新たに建設した拠点に移動して
貰ったことくらいです。その時期に、強い要
望があったにもかかわらず暮らしの場の新
設には至れませんでした。

認可施設の建設時に同時に建設した「暮ら
しの場」である「パルハウス」の負担が当時
の職員に重くのしかかり、建設直後に退職者
が続発したこと、また建設された建物の不備
や水光熱費の負担の在り方を巡って親御さ
んとの間に一致できないことが次々に起こ
り、私も理事会も疲れてしまったからです。
一言でいえば、「事業経験の乏しさ」を全
く認識できていなかった法人側の未熟さな

のですが、親御さんと共に喜び合えると言
う期待が大きかっただけに傷も深かったのだ
と思います。そのような事情で次の暮らしの
場の建設に腰が重くなってしまったと言
うのが正直なところです。

【 建物では無く、居場所を作る大切さ 】

家族の介護負担をできる限り軽くするこ
とを目的に、時々介助を手伝うレスパイト
サービスから始まったコンビニハウスの活
動は時の流れの中で、高齢化した家族を支え
るものに変化して行きました。

15年の歳月は、私たちにとって実に多く
の実践経験を積み上げさせてくれた月日で
もありました。特にグループホームの入居者
それぞれが「自分の暮らし」、「その人らしい

暮らし」を作り上げて行く成長の様は目を見張るものがありました。

グループホームに入居した障害のある息子から「今度の連休、実家に帰らないといかん？」と電話があり、「帰って来たくなければ無理しないでいいよ」と返事をしましたと聞かされて、グループホーム「パルハウス」はそんなにも安心や楽しさを提供できているのか・・・と嬉しく思いました。

【暮らしの場設立準備会の開催】

年の瀬も押し迫った12月22日に3回目となる「暮らしの明日を考える」暮らしの場設立準備会」が開かれました。

これまでの準備会ではグループホームの建設を望む声が親御さんの大半から挙がっ

ていましたし、障害のある人の暮らしの場と
言えば、入所施設やグループホームと言うのが常識でした。障害のある仲間たちの満足度が高いパルハウスの様子を「存じである」ともグループホーム建設への期待を高めていたと思います。

しかし、近年は職員の応募者が極端に少なく、パートヘルパーの確保もままならない求人難にどこの法人も四苦八苦しています。

一人の障害者の生活を支援する為には障害によりますが8名〜10名の職員が必要なのです。

入居者数5名のグループホームには毎日3名の常勤職員と2名のパート職員が配置されています。人手の確保が難しい中で、親元を離れてその人らしい暮らしを作るには

実に多数の介助職員を必要としているのです。

そのような現実を踏まえて職員会議で、理事会で、準備会で話し合いが重ねられて来ました。

2人1組でのルームシェア、あるいは、ワ
ンルームマンションでの一人暮らしの支援
など小さな規模での暮らし作りを年単位で
丁寧に進める・・・このような自立生活の作
り方を形にするとうなるのか、2023年
はこの課題に心を砕いて行く年になると思
います。



新施設建設に向けて —通所施設職員の役割とは—

VOLO 施設長
溝口 愛

12月22日に第三回「暮らしの場」準備会

が行われました。今回は、NPO法人愛実(あみ)の会のシェアハウスの紹介と、前回の会報でも紹介した「自立プログラム」についての勉強会を行いました。自立プログラムを見返す中で改めて感じた、自立生活に向かうための通所施設職員の役割の重要性について書かせていただきたいと思います。

まず、自立とは何か？一般的には「色々なことが自分でできるようになる」といった身辺自立や経済的な自立がイメージされがちですが、これが目指すべき自立像だとすると障害のある人たちは自立することがとても困難になってしまいます。エゼル福祉会は「人との関係を豊かに築いていくことができる」という点を一番重要な自立するための力として考えています。障害のある人たちが親元を離れて生活していくとき、場所がどこであれ、必ず人と関わり介助を受けながら生活していかなくてはけません。そこで重要になるのが人と関わる力です。

では、どのようにして人と関わる力をつけていくのでしょうか？それは学校や通所施設、ヘルパーなど家族以外の人とたくさん出

会い関わりながら、色々な人がいるということとをまずは知ることです。更にその中で安心できる大好きな人との出会いがあるかどうかです。障害のある人は家族(特に母親)との結びつきが強く、本人にとって母親は自分の些細な変化を汲み取り、その時にしてほしい介助や声をかけたりしてくれる一番安心できる存在です。母親のいる家は当然安全で安心できる場所です。その場所から飛び立つときの不安や葛藤、戸惑い、また喜びを一緒に経験し、寄り添ってくれる存在がいるかどうかがとても大事になってきます。そしてそのような存在になり得るのが実は通所施設の職員なのです。

通所施設の職員って何をする人？職員の役割とは？と聞くと、楽しい活動をつくって

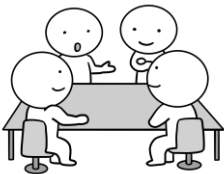
いくこと、日々を安全・安心に過ごせるようにすることなどと思われるかもしれませんが、もちろんこれらも大事なことです。が、介助や活動はあくまでその人と過ごす上での必要な手段の一つにすぎません。一番大事なのは仲間一人一人がそこでどうしたいのか？何を望んでいるのか？ということが土台としてきちんと捉えられているかです。どんなに重い障害の仲間でも、自分の意思をきちんと聞き取ってもらおう経験を積み重ねていくことで、その職員をしつかり認識して大好きになりたくさんのことを伝えてくれるようになります（形として聞くということではなく、表情、行動、身体の緊張の入り方などからきちんと感じて聴いて本人にそれを返していくこと。また、言葉で伝えられる人も表に出

てきたものが本音を深く考えること。その関係性が他の職員や仲間との関係を広げ、新たなことに挑戦する力となり、自立していく力につながっていきます。こういったことは毎日顔を合わせる私たちだからこそできることです。通所施設には人間関係づくり、様々な経験の場、という障害を持つ仲間の世界を広げていくためのたくさんの可能性と役割があり、私たち職員にはその責任があるのです。自立するための力をつけていく根幹に関わる一番重要な役割を担っていると、いつでも過言ではありません。

また、言うまでもなく自立生活は実際にスタートしてからの方が大変です。初めは数名の生活支援部の職員やヘルパーが固定で入り、生活のリズムを一緒につくっていきます

が、しだいに色々なヘルパーと関わるようになります。その中でもどうしても相性が合わない、自分の思い通りにいかないということも当然出てきます。こうした様々な葛藤や経験を仲間同士で語り合い、お互いに励ましあったり学びあったりできるのも通所施設ならではです。そして、様々な思いをもつ仲間たちの姿に私たちもたくさん悩み考え学ばれます。

今回改めて、職員としての役割の重要性、そして通所施設の楽しさ、難しさを痛感しました。自分たちの役割が果たせるよう力を尽くしていきたいです。



イオンスタイルワンダーシティからサンタさんが来ました



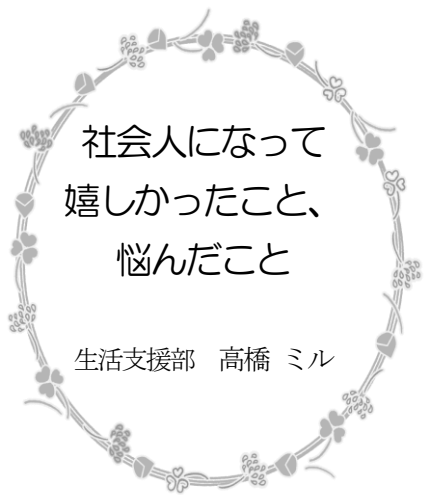
2021年12月20日にイオンスタイルワンダーシティから
サンタさんがプレゼントを持って来てくれました。
元気になる栄養ドリンクをいただきました♪

物品寄付のおねがい

通所施設WILLでは、利用者の方が休憩されるベッド用のシーツ、
製菓の作業で使用する白いバスタオルや白いタオルが不足しています。
ご自宅に未使用のものがありましたら、是非ご寄付ください。
よろしくおねがいします！

※寄付物品は、直接持ち込み、または郵送（恐れ入りますが送料のご負担を
お願いします）での受け渡しをお願いします。お問い合わせは下記まで。

(問い合わせ先)
エゼル福祉会 WILL
電話：052-505-6089 (担当：大森)



私は神奈川県出身で地元の専門学校を3月に卒業し、4月から職員として入職しました。今はグループホームの職員として日々支援に入っています。今回は社会人になっての理想と現実、グループホームでの経験について書きたいと思います。

皆さんは子供の頃に思い描いていた社会人はどんな感じでしたか？いつも忙しそう、朝が早そう…様々だと思います。自分が思い描いていた社会人は、キラキラしていて仕事

は大変だけど楽しい、かっこいいというイメージでした。

実際に社会人になってみると大変で、事務作業はミスの連発、グループホーム入居者さんから介助を拒否されて悩んだり、落ち込んだりすることもありますが、日々があつという間に過ぎ去ってしまうほど楽しく、充実しています。

ただ、今の自分がかっこいいと言われるとそうでもないなと思いますし、むしろかっこ悪い部分ばかりな気がします。頼まれたことを忘れて迷惑をかけて…理想の社会人にはなかなかないものですね。

私が社会人になって変わったなと思うところが2つあり、1つが時間を気にするようになったことです。支援に入る際にグループ

ホームの朝だと、送迎バスに乗って通所に行く入居者さんたちは何時までに準備をして出発しなきゃと時間を逆算して行動するようになりました。私生活でも、如何に時間をうまく有効活用していくか、意識するようになりました。

次が食生活です。実家だとあまり意識することなく家族に任せていました。小さい頃には好きでよく食べていた揚げ物が我が家の食卓に並ぶことが多かったです。

自炊するようになり、油の処理が面倒なため、揚げ物が自然と減りました。また、自炊をしてみてくださいご飯を作ってくれた家族のありがたみを感じます。支援でもご飯を作る機会が多いので、家で作っておいしかったおかずをグループホームの方たちにも食べてほしい

くて献立に組み込むこともあります。

次にグループホームで入居者の方から支援を拒否され悩んだ体験を書きたいと思いません。

Aさんと朝の支度をしていて、「そろそろ行きましようか」と声をかけると「やっ!」と拒否され、同じことが毎回続き、「何がいけないんだろうか」と悩んでいました。先輩から「今日は通所で〇〇やる日ですね、とか声掛けしてみては?」とアドバイスをもらったので、「今日は音楽クラブがありますね」とか声かけしてみたりしましたが反応は変わりませんでした。

「私のコミュニケーションが足りないのでは?」と考え、Aさんが通所でやっていたこと、好きなものの話、私自身のことを話し

たり、朝は「今日は誰が迎えに来ますかね?」

と一緒に考えたりして見て、あの手この手で関わっていくなかでAさんの拒否が減っていききました。

初対面で何も知らない、よくわからない人に声掛けされても不安になりますよね。Aさんもそうだったのかもしれませんが、お互いを知る、当たり前的事ですが大切なことだと実感しました。

グループホームで嬉しかったのは献立の作成を任された時でした。はじめは家庭でよく出るようなものが良いかと思い、カレーや肉じゃがなどを取り入れていました。

グループホームの方々の嗜好が少しずつわかってくると、自分なりに工夫して入居者それぞれの好物や郷土料理を取り入れてみ

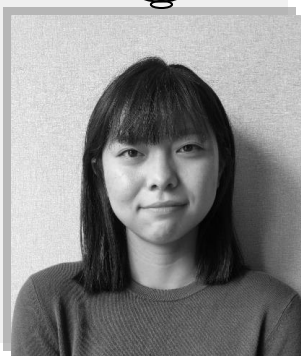
ました。そんなとき、ある入居者の方から「高

橋さんが考える献立はおしゃれだし、楽しみだよ。」と言ってもらえたことがあります。

「おいしかった」や「この料理楽しみにしてた」等の言葉をさらりと聞いてもらえ、料理の話題で入居者の方たちと会話が盛り上がる嬉しく思います。

1年目でまだまだ失敗も多いですが、日々前進できるようにこれからも頑張っていきたいです。

これからも
頑張っていきます



《活動状況》

11月

- 1. 15日 名障連 ソーシャルワーク研修
(田原)
- 3日 W I L L ・ V O L O 祝日開所
- 4日 福祉の杜様見学 (溝口)
- 4日 V O L O 防災会議
- 8日 対人援助技術研修 (犬飼)
- 10日 連絡調整会議
- 12. 19. 26日 重度訪問介護従業者養成研修
- 13日 なかおたいマルシェ出店
(W I L L 製菓)
- 15日 きょうされん行政懇談会 (大森直)
- 17日 理事会
- 18日 通所部 主任会議
- 18日 きょうされん会議 (大森直)
- 24日 会報発送
- 24日 障全協行政交渉
きょうされん居宅部学習会
- 27日 評議員会
- 28日 きょうされん愛知支部
北東ブロック会議 (佐藤)
- 29日 生活支援部 主任会議
- 30日 知的障害研修 (高橋)

12月

- 2日 ケース会議
- 5日 社協 アンガーマネジメント研修
(坪内)
- 6日 名古屋生活支援事業所連絡会 (渥美)
- 6日 会報会議
- 14日 連絡調整会議
- 16日 就職フェア (榊原・山崎)
- 20日 イオンワンダーシティ様 V O L O 来所
法人へクリスマスご寄付贈呈式
- 22日 暮らしの場建設委員会
- 26日 日本福祉大学 学生訪問
- 29日 通所部 総括・大掃除

★ 11/14～12/29 V O L O 美術館開催 ★
(V O L O 研修室にて)



事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

11月～12月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

トクメイ

(社会福祉法人エゼル福祉会)

親の会

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

イオンワンダーシティ

クイックメンテナンス

佐藤慶太 丹羽恵子 久保昂太郎

若林祥子 大川美知子

(WILL)

丹羽恵子 (株)こうせい

上野初江 井上祐子

(VOLO)

石原優樹 久保昂太郎

高嶋一臣 安永麻里

伊藤弘子 坪内美紀

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

石原正寅 辻本道子 大森 信

東原光江 榊原さち 石原まち

寺西 剛 鈴木千春 土田京加

田村淳仁 栗本博美 酒井まみ子

西川昇吾 大野香織 平林千聖都

桐澤 潮 鈴木悠太 小林愛恵

篠田倫子 渡部陽妃 松井暖実

後藤 楓 西 亮憲 長谷川美緒

清水柚衣 玉那覇詠洸

榊原つぐみ 近藤友紀子

★ 会報発送ボランティア

丹羽正子 半田素子 渡辺世津子

佐藤美紀子 藤田ますえ



長谷川友子写真集「アジアの笑顔にまなぶ」を出版(2022.12.1)いたしました。

A5版 P50 ¥3000(+税)

ご購入下さる場合は、¥2500(送料¥180)でお届けいたします。

下記にご連絡ください。

〒451-0043 名古屋市西区新道1丁目12-32-1205 長谷川友子

eye@384.jp 090-3449-1363



長谷川友子写真集「アジアの笑顔にまなぶ」

なぜ、この人たちはこんなに心安らく笑顔なのか

アジアの国には、経済成長から置き去りにされた多くの人々がいる。
電気や水道もない暮らし、粗末な家、きびしい肉体労働。
それゆえ、彼らには、その暮らしの中で身に付けた生きるための強さと、
1人では生きて行く事が出来ない事を自ずと知っているがゆえの、
互いを思いやるやさしさがあつた。

【銀行口座】三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <https://ezeru.or.jp/>

E-mail convini@ezeru.or.jp

